課題解決型高度医療人材養成プログラム
取組の概要と推進委員会からの主なコメント

テーマ②：外科解剖・手術領域

整理番号	2

申請担当大学名 （連携大学名）	北海道大学 （京都大学、千葉大学）計３大学
事業名	臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成
事業責任者	北海道大学大学院医学研究院長・吉岡　充弘

事業の概要

コンソーシアムを形成する３大学の連携により、わが国が立ち遅れている外科教育・臨床解剖・医療機器開発の３分野をマネジメントし、学術環境を構築しうる医療人材を養成する。 大学院課程の必修科目と医工学人材養成のインテンシブコースでは、臨床医学教育、外科解剖、医療機器開発等の講義と CST 実習を設定する。初年度に e-learning 環境を構築し、次年度から各大学で集中講座・e-learning・CST 実習を行う。 大学院課程の３コースのうち、外科教育研究コース(医・歯学)、臨床解剖研究コースでは、外科系各領域で教育研究を行うために必要な CST プログラムをマネジメントできる人材を養成し、医療機器開発コースでは、医工学分野の共同開発を担うマネジメント人材を養成する。事業終了後も大学院課程は各大学で共通科目化しインテンシブコースも継続する。これらの取組により献体使用による医学教育研究の深化を目指す。

推進委員会からの主なコメント　　○：優れた点等、●：改善を要する点等

○CST をマネジメントできる医療人材と医工学のリエゾンの核となる専門人材を育成するという着眼、また、連携大学がしっかりと連携していることは評価できる。

○新たな学問体系として「外科教育学」「臨床解剖学」を確立することに新規性があり、教育プログラム開発が期待できる。

○大学間の Web 配信講義による共通科目の設置、e-learning による教育の効率化を行う点は、連携事業の継続や普及をする上で、他大学のモデルとなり優れている。

●医工連携を全面に出しているが、事業の実施体制は医学関係教員ばかりであり、メリットが見えにくい。